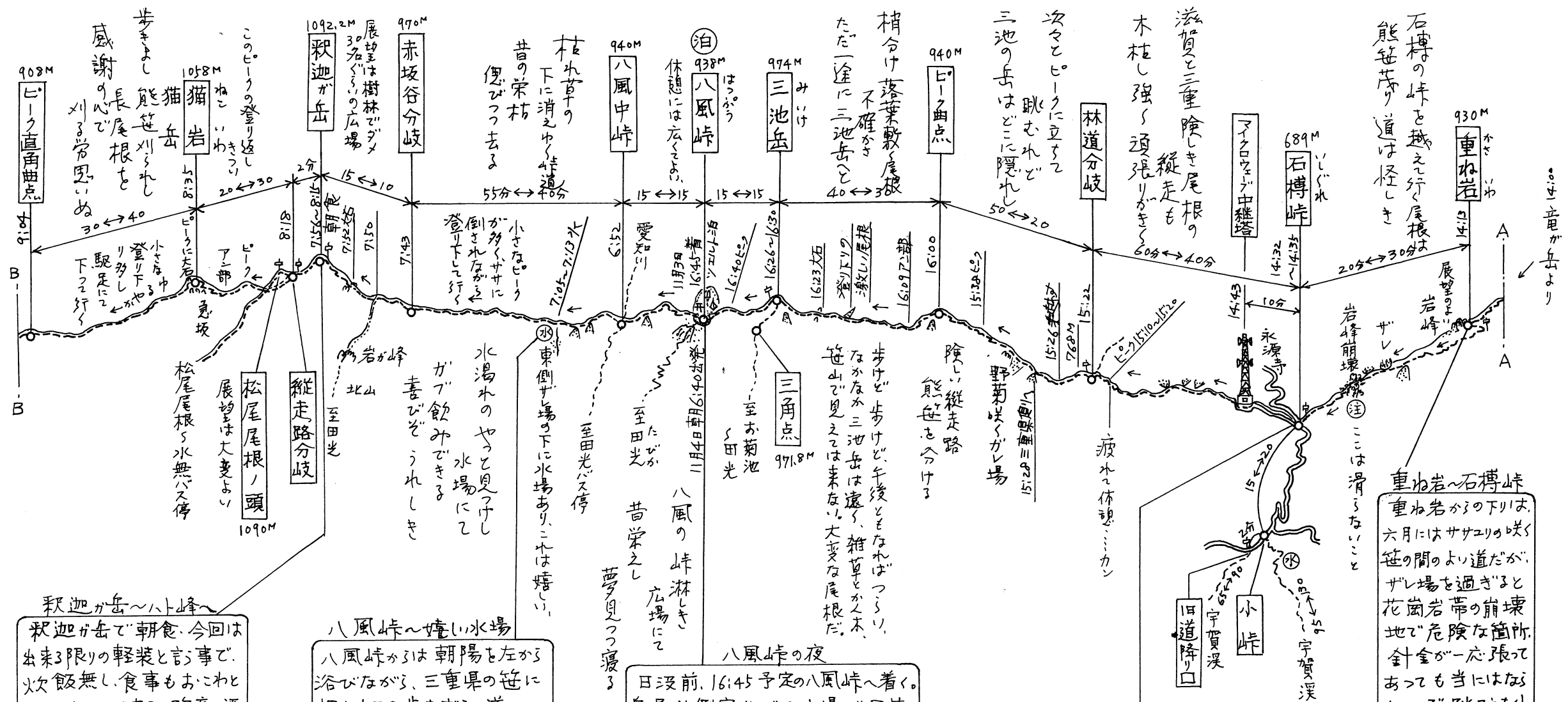


藤原岳～竜が岳～釈迦が岳～御在所岳

4/5 立体図 46



釈迦が岳～ハト峰
 釈迦が岳で朝食。今回は出来る限りの軽装と言う事で、炊飯無し、食事もおこわとパン・ミカンである。昨夜の酒も飲んでザックは軽々しい。ここにはパン・ミカンで済みます。大阪工大の3人ピーターが登って来て、先客の私たちがいるのを見て驚く。釈迦が岳からハト峰に向う。ここの消防団のお陰で笹が刈り込んである。尾根道は歩きやすい。一旦猫岩への登り返しはきついが、おとははピークも小さく、ハト峰まで1時間であらう。

八風峠～嬉しい水場
 八風峠からは朝陽も左から浴びながら、三重県側の笹に押されての歩きずい道。今年は全国的な水場めで、山の沢も水は無く、ハト山まで我慢しながら進まないかと諦めながらも、滝が谷上音の清水の出る箇所を注意しながら行く。中峠より12分、先に行く三浦さんの「ある、ある」の声で、いっぺんに元気が出る。東側ザレ場へ流水落ちてくる所へ一段飛び降りて飲み、水筒に詰めて喜ぶ。

八風峠の夜
 日没前、16:45予定の八風峠へ着く。鳥居北側空地がテント場で、早速ツエルトを張る。木に毛布が掛けてあったので、拝借して地面に敷く。先ず酒肴で一杯やりながら今朝からのコースの話。晩食は馬で買った助六寿しを食べる。固くなったし、食べやすいのがよい。三浦さんと外に出る。満天の星のきらめく中で北極星を見付け、カシオペヤ、ギョウシャ、シリウス、オリオンなど星座を見付けて空に遊ぶ。山麓東側は四日市港特有の電気の光輝き、石油コンビナートは休日無し。

石樽峠から中継塔までは車道。中継塔を回って右側奥より登る。県境尾根は笹の生い茂る間を行く。野菊咲くガレ場以外は、終始滋賀県側に踏跡があるが、よく見て歩かないと足を折られるので注意が必要。縦長ザックで軽装でなければ、擦り抜ける水は長い行程である。三池岳までは全体に登りで、午後ともなれば疲れも出てきつ。